

# 公益財団法人 アジア保健研修所

## 2019年度事業計画

(第6期 2019年4月1日～2020年3月31日)

はじめに	2
<b>A. 研修事業</b>	
1. 国際研修	2
2. 研修生へのフォローアップ事業	2
1) 英文ニュースレターの発行	
2) リユニオンセミナー（国別の元研修生会合）開催準備	
3) 次世代育成事業の企画立案	
4) その他のフォローアップ	
3. 地域保健推進のための協働事業	3
1) フィリピン	
2) フィリピン	
3) パキスタン	
<b>B. 国内活動</b>	
1. アジア理解のためのプログラム	4
1) オープンハウス	
2) 初めて始めて講座	
3) AHI 講座	
4) アジアの NGO ワーカーと語る集い	
5) スタディツアー	
6) 巡回報告会	
2. 情報および体験機会の提供	4
1) 情報誌『アジアの健康』の発行	
2) 情報誌『アジアの子ども』の発行	
3) インターネットを活用した広報活動	
4) ボランティア・インターンの受け入れ	
3. 他団体との協力	5
1) 他団体への講師派遣	
2) 団体・ネットワークへの加盟	
3) 他団体との協力による政策提言活動	
<b>C. 法人運営</b>	
1. 理事会・評議員会	6
2. 賛助会員募集・募金活動	6

## はじめに

アジア保健研修所（AHI）は、2020年12月に創立40周年を迎える。この間の変化はさまざまいが、同時に停滞し変わらない面もある。

国を越えた人、モノ、資金の移動は格段に進み、インターネットの著しい普及がアジア各国の農村部まで急激に進んだ。近年アジアのいくつかの国々で経済成長が見られ、首都では建設ラッシュがみられる。農村部の労働人口は、都市や海外へと移動し、AHIの研修生が活動する地域でも残っているのは子どもや高齢者という状況が顕著である。AHI設立時にはアジア諸国で人口の大半が農村人口であったが、それはすでに逆転しており、「取り残される人々」はより一層その状況に拍車がかかっているとみえる。

創立35周年記念募金を原資とする「アジアの次世代育成」は、前述の状況の中で農村部がどういふ将来像を描けるかという大きな課題を背景としている。そしてまたこの課題は日本の地域の課題そのものでもある。日本とアジアの人々との学び合いの場を作るといふAHIの役割が今後一層重要になろう。

組織内部では、高齢化に伴い、賛助会員数の減少が著しい。そういう事態に抜本的に対応するために、40周年を前に今年度から来年度へかけて、あらためて目指すビジョンと役割、また基本とする理念を確認し、事業全体を整え直すべく議論を重ねていく。

## A. 研修事業

### 1. 国際研修

「すべての人びとの手に健康を」を実現するた

めには、住民にとって保健医療サービスが手に届くものにしなければならない。そのために住民が地域での意思決定に参加できる環境を整備することが必要となる。本研修ではそれぞれの研修生が、自国および活動地域の状況に応じて、NGOに求められる役割、それに照らしてこれまでを振り返り、さらに今後の活動の方向性を明確にすることをねらいとする。

各国からの参加者が各自の活動経験を基に、議論することを中心に据えた参加型研修を行う。他の参加者が提示する事例や日本の状況を知るだけでなく、それらを自身の活動状況に照らし分析的にとらえ、実際の取り組みに活かすことができるように研修の運営に努める。

#### \*テーマ

健康な地域づくりのための地方自治における住民参加の推進

#### \*内容

各研修生の活動事例の発表およびそれに基づく討論を行う。また日本国内での実践事例を訪問し、そこから学ぶ。研修終盤には帰国後の活動計画を作成する。

\*期間 2019年9月1日～10月14日

\*場所 AHI会館（愛知県日進市）

#### \*対象・参加者

アジア7～8ヶ国から12～13名。地域での保健・開発活動に従事するNGO職員（及び地方行政職員並びに住み組織のリーダー）

\*訪問先 名古屋市、広島市、阿智村（長野県）

## 2. 研修生へのフォローアップ事業

### 1) 英文ニュースレターの発行

元研修生や国内外の関係団体を対象に、英文のニュースレターを発行し、アジア各地および日本での保健・地域開発活動の情報を提供する。毎月

テーマを設定し、元研修生や関連団体から原稿を募り、活動経験や意見を共有する場とする。年間3回、各1,000部発行する。

## 2) リユニオンセミナー（国別の研修生会合）の開催準備

元研修生間の情報交換を促すと同時に、新たな学習、ネットワーク形成の機会として、国別に開催する。元研修生の自発性・自主性に基づき、有志によるチームが企画立案、実施を行う。

現在バングラデシュで2020年度内の開催に向けて研修生有志が準備を進めている。他の国についても開催に向けて元研修生と適宜交信を行う。

## 3) 次世代育成事業の企画立案

当事業は創立35周年記念「アジアの次世代育成募金」を原資とし、実施期間を2025年までとする。

これまで、アンケート等を通じて元研修生の取り組みを把握、また出張時に訪問するなどしてきた。2019年度には、既存の事業との連携も視野に入れ、「NGO活動や地域づくりの担い手の育成」という課題に照らして、元研修生間の経験交流のための具体的な企画案を検討する。

## 4) その他のフォローアップ

### ■AHIとの関係強化、研修生間のネットワーク形成のために

研修後もAHIや他の研修生との関係が継続するよう、働きかけや環境整備を行う。

\*誕生日に職員が寄せ書きしたカード、年末にはグリーティングカードを送付する。

\*ホームページ上の「元研修生便覧」（元研修生が他の元研修生を活動領域や国別などで検索できる機能）の周知と活用の促進。

## 3. 地域保健推進のための協働事業

元研修生による特定地域での活動に協力する。

### 1) ヘルシーライフスタイル推進

#### 元研修生有志ANAK-NCとの協働

(フィリピン)

ミンダナオ島北ダバオ州ニューコレリア町で、元研修生の団体ANAK-NCによる、地域住民の健康増進とそのため環境整備の活動を支援する。メンバーのほとんどがボランティアとして活動しており、組織・事業運営の弱さが課題であったが、2018年度後半にAHI職員も交えて、事業の方向性や現実的な目標を確認した。2019年度から3年間の合意書を結び、既存の地域での活動の充実を図る。

### 2) 保健ボランティア育成と代替医療の推進

#### 元研修生の所属団体INAMとの協働

(フィリピン)

INAMがルソン島中部の二つの町で行う保健ボランティアの育成事業に協力してきた。しかし2017年度に海外の資金提供団体からの大口の資金が修了したことを契機に、規模縮小に迫られた。現在体制の立て直しの途上にある。2019年度は、ボランティア育成がある程度進んだタナイ町において、今後の持続性のために行政側の保健委員の育成事業などを行い、それらの実施をもって協働事業を終える予定である。

### 3) 小規模NGOの若手スタッフ育成

#### 元研修生所属団体 エイズ啓発協会 AIDS Awareness Society (AAS) との協働

(パキスタン)

2013年度国際研修の参加者が立案した、NGO活動を担う次世代育成を目的とした事業を2014年度より支援している。2019年度より3年間協働

関係を継続し、研修会開催とその後のフォローアップを支援する。2018年にはこれまでの参加者のネットワーク（LIFE）が結成された。3年後に本研修の実施を同団体に委譲できるよう、2019年度は、関係者の企画運営力を高めることに努める。本年度の研修会開催は次の通り。

時期：2019年4月中旬10日間（予定）

場所：パキスタン北部ラホール市内

対象：現地のNGOの若手スタッフ 約20名

## **B. 国内活動**

### **1. アジア理解のためのプログラム**

#### **1) オープンハウス**

気軽に参加できる場として、また年に一度の恒例行事として、「楽しくアジアとAHIに触れるお祭り」オープンハウスを開催する。

ボランティアで組織する実行委員会が企画、運営を担う。その中で、実行委員の当法人の活動への理解やアジアでの開発活動への関心を高める。新しい来場者を得るために、企画の充実とともに幅広く広報に努める。

開催日：2019年10月14日（祝・月）

#### **2) 初めて始めて講座**

国際協力、あるいはボランティアなどに関心のある新規の人を対象に、当団体の理念や活動を紹介するための講座を毎月1回、第4土曜日に開催する。その後のボランティア活動やプログラムへの参加につながるよう、同講座において参加者同士の交流に努め、また他のプログラムとの連携を図る。

#### **3) AHI 講座**

関係者や職員を講師として、当法人に関連した諸分野のテーマを掲げ、年に2-3回開催する。新規の層、あるいは一度接点を持った人との関係を発展させることができるよう、アジア各国の情報、人びとの暮らしや文化、地域開発のアプローチなど多様なテーマ設定に努める。

#### **4) アジアのNGOワーカーと語る集い**

一般市民、学生を対象に、アジア各国で地域保健・地域開発に携わるNGOワーカーと交流し、彼らの活動を知ると同時に、日本の状況や身近な地域の課題を振り返ることをねらいとする。2019年9月下旬実施予定。

#### **5) スタディツアー**

元研修生及び所属団体の協力を得て彼らの活動地域である農村・漁村部を訪問する。ホームステイなど生活体験を持つと同時に、NGOおよび住民による開発活動を見学する。訪問先はスリランカ。

定員は20名程度、高校生以上を対象とし、2019年3月下旬実施予定。

#### **6) 巡回報告会**

既支援者との関係強化の機会および新規の人との接点として、元研修生（及び活動パートナーである住民組織のリーダー）を日本に招聘し、名古屋市ほか数ヶ所で活動報告会を催す。時期は、11月下旬から12月中旬の約2週間を予定。

### **2. 情報および体験機会の提供**

#### **1) 情報誌『アジアの健康』の発行**

アジア各地の状況、地域の課題、NGOや住民による取り組みを伝える。具体的な情報を提供することに努め、読者が身近に感じられるものを目指す。またボランティア紹介の記事を通して、支援

者間の交流の場という性格も高める。

年に5回、各回約3,000部発行。うち1回は手軽さをねらいとし簡便な形（A4両面）とする。

## 2) 情報誌『アジアの子ども』の発行

日本の子ども（主対象：小学校高学年以上）向けに、現地での地域開発の活動も織り交ぜて、同時代を生きるアジア各地の子どもたちの日常をわかりやすく伝える。年に2回、各4,000部発行。

## 3) インターネットを活用した広報活動

ホームページ、ブログ、SNSの活動を通して、不特定多数の新規の人たちに向けた情報発信を充実させる。また同時に、他のインターネットの媒体を活用し多様な人たち間でのやりとりを活性化し、より広く「知られた」存在となることをめざし、新規の支援者の開拓につなげる。

## 4) ボランティア・インターン受け入れ

学生や社会人を対象にNGOの活動の現場を体験する機会を提供する。さらに、多様な人たちの関与を促し、異なる背景や世代の人たちが交流し、学び合う場を作る。

## 3. 他団体との協力

### 1) 他団体への講師派遣・イベント出展

要請に応じて、学校や諸団体に職員や関係者を講師として派遣し、アジアの状況を伝える。

「小学校で行う国際理解講座」は、日進市内においては、市との協働事業という位置づけで7校程度行う。加えて、名古屋市内など日進市外の学校についても依頼に応じて実施する。

また、外部の諸団体が行うイベントに出展する。そこでの活動紹介や民芸品の販売等を通じて、新

しい人たちと接点を作り、ボランティアや支援者の獲得に努める。

## 2) 団体・ネットワークへの加盟

下記の諸団体に加わり、関連分野の活動を進める。〈 〉内は職員の各団体における現役職名。

- ・名古屋 NGO センター〈代表理事・NGO-JICA 協議会コーディネーター、東海市民社会ネットワーク幹事〉
- ・名古屋キリスト教協議会〈書記〉
- ・障害分野 NGO 連絡会〈幹事〉
- ・日比 NGO ネットワーク
- ・日本キリスト教協議会
- ・カンボジア市民フォーラム〈世話人〉
- ・開発教育協会
- ・あじさい会（日進市内の事業所交流会）
- ・パートナーシップサポートセンター

この他、日進市及び近隣地域での市民グループ「にっしん平和を考える会」及び「次世代の子どもたちの“いのち・くらし・エネルギー”を考える会」の活動に加わっている。

また、職員が次の関係団体の役職を務めている。

- ・社会福祉法人さふらん会〈評議員〉
- ・名古屋 YWCA〈評議員〉

## 3) 他団体との協力による政策提言活動

加盟団体の一員として、関連分野において関係機関等への政策提言活動を行う。

### a) 名古屋 NGO センター

東海地域の NGO ネットワークである同センターの加盟団体として、また政策提言委員会のメンバーとして、国際協力機構（JICA）や外務省などへの政策提言活動に関わる。

### b) カンボジア市民フォーラム

同フォーラムに加盟し、カンボジアの開発、保健政策への提言、また援助国・国際援助機関に対

する提言活動に関わる。

## C. 法人運営

### 1. 理事会・評議員会

組織のガバナンスの機関としての評議員会、事業執行を担う理事会、それぞれの機能を充実させる。

2020年12月に創立40周年を迎えるにあたり、理事会、事務局が中心となり、組織の理念を新たに固め、今後の方向性を検討することを重点課題とする。

### 2. 賛助会員募集・募金活動

公益事業の遂行のための経年の経費をまかなうために、賛助会員募集および募金活動資金を行う。

**\*新規会員、特に「ひとつかみサポーター」(月定額自動引落による支援)呼びかけの強化**

新規の人と接点ができた際に、丁寧にコミュニケーションをはかり、継続的な関わりにつながるよう働きかけを行う。その上で随時、財政支援を働きかける。

特に下記2つの層に意識し、国内諸プログラムにおける「切り口」を探し、新規の人たちとの接点を拡大する。

**\*社弱者への高い共感を感じるシニア層の人たち**

**\*社会課題に関心の高い若手社会人～子育て世代**

**\*継続率向上**

退会者の半数以上を占める自動退会(3年間納入がない場合)を抑えるために、引き続き自動引落の利用を呼びかける。また、利便性を高めるためにオンラインでの送金の仕組みの拡充に引き続き努める。

**\*「想いを伝える遺言書の書き方講座」**

高齢化に伴い関心の高まりが想定される遺産相続について、司法書士である元職員の協力を得て2019年度も同講座を年に2回程度実施する。遺贈寄付につなげられるよう情報提供を行う。

**\*研修事業の成果の「見える化」**

「寄付」を「社会課題解決への投資」としてとらえる傾向が強まっている中、昨年度から始めた国際研修の社会的インパクトを把握する取り組み(SROI)を完了させ、その結果をもって、企業や団体等にアプローチする。

**\*長年支援者への働きかけ**

昨年35年以上継続の支援者をオープンハウスに招き、感謝の集いを催した。2019年度も同様の場を設け、感謝を表明するとともに、それぞれに家族や知人を誘って参加していただくよう薦め、AHI支援の継承をお願いする。

**■会費収入目標** 計 14,000,000 円

**a) 新規会費(年会費)**

平均 5,000 円× 目標 40 名 = 200,000 円

**b) 新規ひとつかみサポーター**

月額 1,000 円×目標 50 名×8 ヶ月 = 400,000 円

**c) 継続会費** 目標 13,400,000 円

2,270 件(年度初め見込)×7,300 円(1 件あたり)×84%(継続率) = 13,919,640 円

**■寄付収入目標** 計 29,000,000 円

**a) クリスマス・お正月募金**

目標額: 16,000,000 円

期間: 2019年12月1日～2020年2月28日

**b) 一般寄付**

目標額: 13,000,000 円